

## チャレンジ

門川高等学校 二年 吉田 花夏

「こんにちは。門川町から特産品を持って来ました。いかがですか？」

宮崎のアンテナショップ「新宿みやざき館KONNE」でお客様の呼び込みです。

私は、十一月九日、十日、門川ブランド事業のPRイベントに門川役場の皆様と一緒に参加しました。東京のど真ん中で「かどつびー」のかぶり物を被せられ、内心、「こんな姿、クラスメイトには見せられない！」と最初は恥ずかしさで一杯でした。そもそも、このPRイベントに参加するという話を聞いたときから、私は「門川」が東京の人に受け入れられるのかと不安に思っていました。生まれも育ちも門川の私にとって、ここは、自然豊かで、漁師の祖父がいて、魚があつて年に一度のどんじりが楽しみな田舎町。

どう考えても、「東京と接点はない！」としか思えませんでした。それでも、「東京」という都会への憧れと十二月の修学旅行の下見になるかと思つて、このイベントへの参加にチャレンジしました。

そんな私でしたから、東京の「みやざき館KONNE」に着いたときはとても驚きました

見慣れた県内の「特産物」がずらりと並べられている店内。二階には郷土料理のレストランもあり、週末の特別メニューは「にべ」のお造りがついた「門川定食」になっていました。そして、たくさんのお客様が来て、次々と商品を買って行くのです。レストランも行列です。このような地方のアンテナショップが東京にはいくつもあると店長さんから聞きました私は目からうろこがおちるよ

うでした。「地方」が都会に色んな物や情報を発信していく時代だ」ということをぼんやり聞いていた記憶がよみがえりました。今回、門川町から持って行ったものは「トマト」と「ちりめん」と「からすみ」でした。トマトは地元の農家さんも一緒に行つて販売しました。門川の甘いトマトはお客様に

大人気でした。真っ赤なトマト色のセーターでお客様にトマトの説明をする農家さんに自分の仕事に対する「プライド」を見せつけられました。それから役場の皆様が自ら、かどつびーをかぶり、「地元のことを知ってもらおう！」

ふるさと納税や移住の案内のパンフレットを準備してPRする姿も新鮮でした。私は、これまで、役場の方がこのような仕事もされているとは知りませんでした。「少子高齢化」と「産業の活性化」は、地方の町の共通の課題です。私は、門川が「人が親切で住みやすい町だ」と思うところで止まっていた自分に気づき

ました。この、住みやすい町をさらに良くして、住み続けられる町にすること。そのための方策を私たちが考えていかなければならないのだと気づきました。

そこで、まず、私にできることは何かと考えました。私は、今回のイベントに参加するまで「自分が門川町のために何ができるか」など考えたことはありませんでした。きっと、私のような若い世代が町内にはまだいると思います。そのような、若者が繋がってこれからの門川について語り合う場をつくれたらよいと思います。そのため私は、これから町内であるイベントやボランティア活動に積極的に参加したいと考えています。そこで出会った人達とこれからの門川について一緒に話しをしていけたらいいなと思つています。それから、もつと門川のことを知るといふ意味では、これまで、あまり気にしていなかった「回覧板」や「門川町の広報誌」

にも注目してみようと思います。これは、提案になりますが、広報誌に高校生の声を取り上げるコーナーなども作ってもらえると、若者も興味を持つて、見るのではないかと思います。また、私は、今回の経験から、町の大人の方と一緒に何かをすることで、自分の知らなかったことを知れたり、自分の世界の広がりを実感することができました。これまで苦手と思っていた、世代の異なる方との交流の機会も大事にしたいと思います。

東京で、門川の特産物が多くの人の手にとられ、買われて行く様子を見て、私はとても嬉しくなりました。中には、「門川はどんな町?」「大分の近く?今度、行ってみたいね」と声をかけてくれる人もいました。二日間のイベントでしたが、一日目よりも、二日目は自分でも頑張れたし、恥ずかしくなかった「かどつぴー」も、少し、自慢に思えてきました。イベントの期間中、何より嬉しかったのは、「今日、ここでイベントがあるって聞いて来ました。」と言う門川町出身の人達が来てくれたことです。懐かしそうに、商品を眺めたり、どこに住んでいたという話しをしたりする姿が、とても印象に残っています。

私は、今度、また東京で門川のイベントをするときには本物の「だんじり」無理でも、映像を流したりするのも門川らしさが伝わってよいのではないかなと思いました。

遠く離れていても、忘れられない思い出の場所で、帰りたくなる町。老いも若きも元気で、人の交流が温かい町。そんな門川町であり続けられるように、私は、これから、この町で、色んなことにチャレンジしてみたいと思います。